

熊本市ごみレポート

令和5年(2023年)版



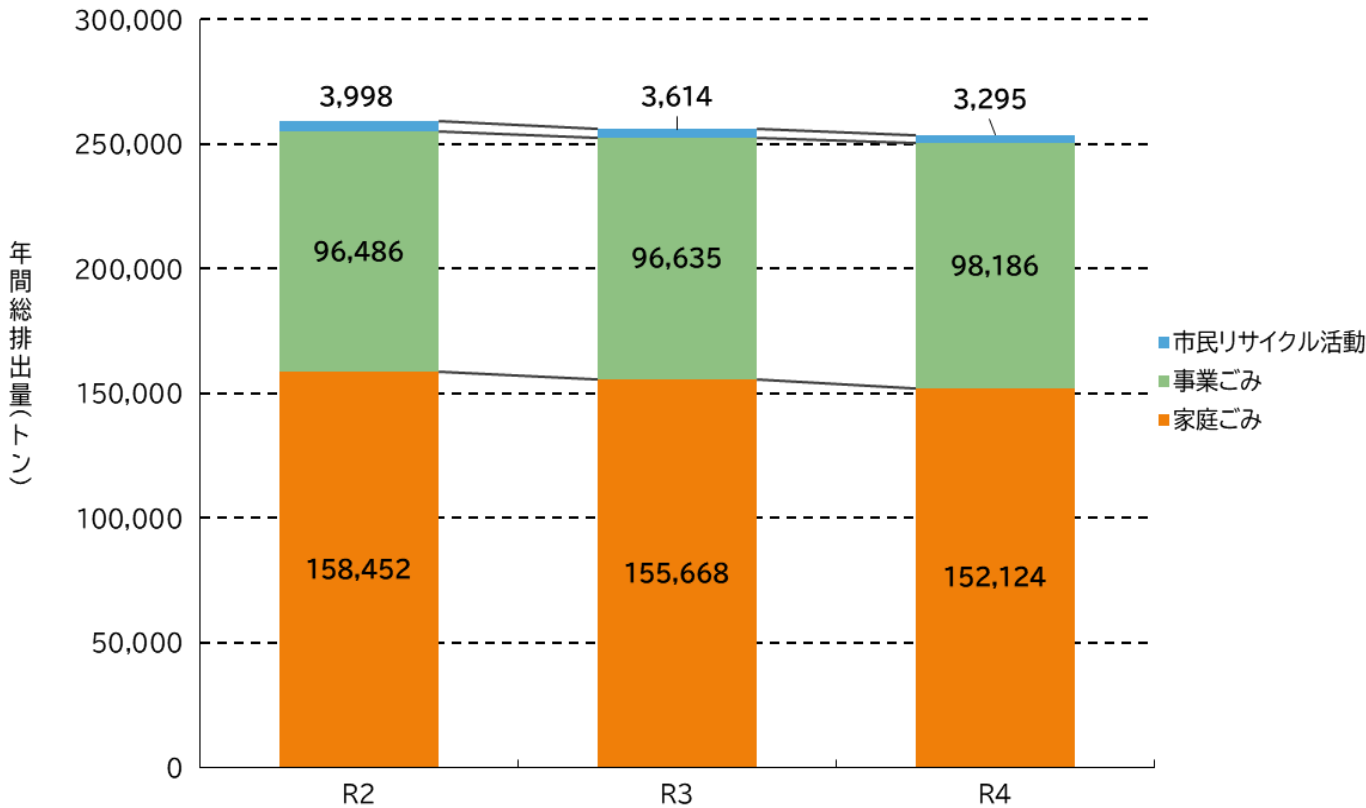
令和6年(2024年)3月

— 熊本市環境局廃棄物計画課 —

1 熊本市のごみ排出状況の推移

	R2	R3	R4	対前年度比
収集人口(人)	730,648	729,195	729,058	99.98%
収集世帯数(世帯)	347,828	350,186	354,826	101.3%
年間総排出量(t)	258,936	255,917	253,605	99.1%
1日1人当たり排出量(g)	971	962	953	99.1%
○家庭ごみ				
年間総排出量(t)	158,452	155,668	152,124	97.7%
1日当たり排出量(t)	434	426	417	97.7%
年間処理量(t)(資源化された量を除く)	124,656	122,580	120,522	98.3%
1日1人当たり排出量(g)	594	585	572	97.8%
1日1人当たり処理量(資源化された量を除く(g))	467	461	453	98.3%
1日1世帯当たり排出量(g)	1,248	1,218	1,175	96.5%
○事業ごみ				
年間総排出量(t)	96,486	96,635	98,186	101.6%
1日当たり排出量(t)	264	265	269	101.6%
○市民リサイクル活動				
年間回収量(t)	3,998	3,614	3,295	91.2%
1日当たり排出量(t)	11	10	9	91.2%

ごみの排出状況



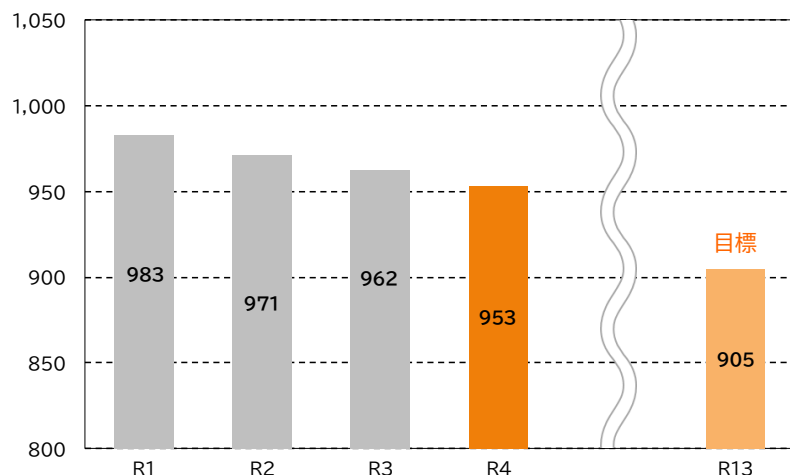
2 ごみ量・リサイクル率の推移

令和4年3月に新たに「熊本市一般廃棄物処理基本計画」を策定し、環境負荷の少ない、持続可能な循環型都市の実現を目指しています。

(計画期間：令和4年度～令和13年度(2022年度～2031年度))

① 1人1日当たりのごみ総排出量(市民リサイクル活動回収量を含む)

※ごみ総排出量(市民リサイクル活動回収量を含む) ÷ 人口[人] ÷ 365[日/年]



目標値

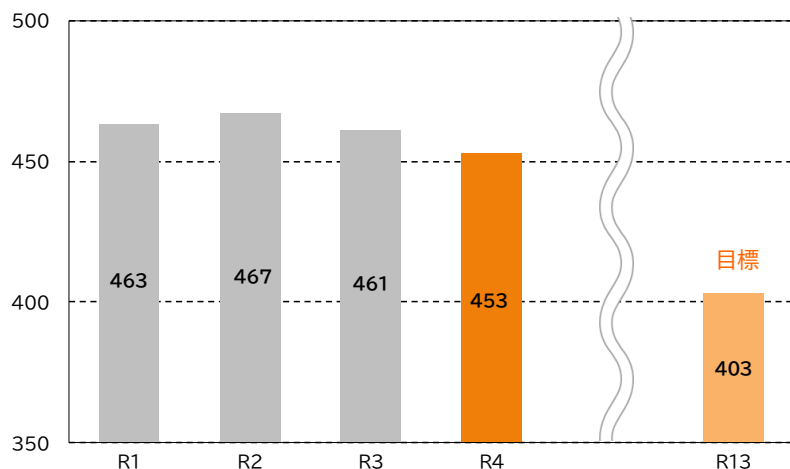
令和元年度 983g ▶ 8%減 令和13年度 **905g**

令和4年度実績

953g | 3.1%減 ※令和元年度比

② 1人1日当たりの家庭ごみ処理量(資源化された量を除く)

※(家庭ごみ処理量－資源化された量) ÷ 人口[人] ÷ 365[日/年]



目標値

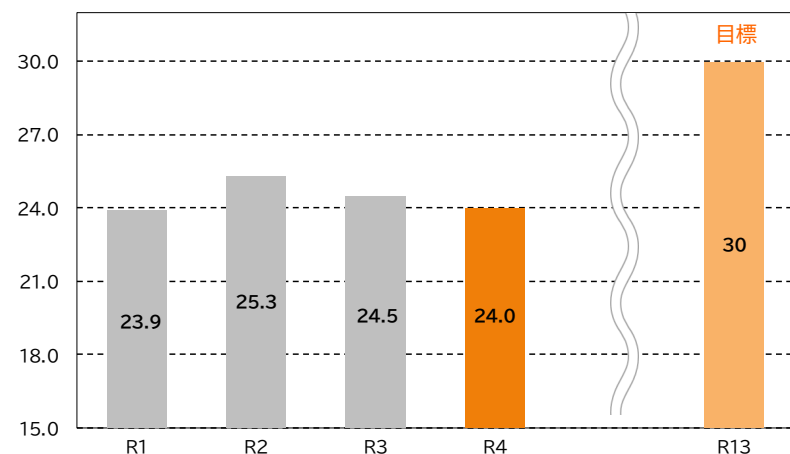
令和元年度 463g ▶ 13%減 令和13年度 **403g**

令和4年度実績

453g | 2.2%減 ※令和元年度比

③ 家庭ごみのリサイクル率

※(家庭ごみから資源化された量 + 市民リサイクル活動回収量) ÷ (家庭ごみの収集量 + 市民リサイクル活動回収量) × 100



目標値

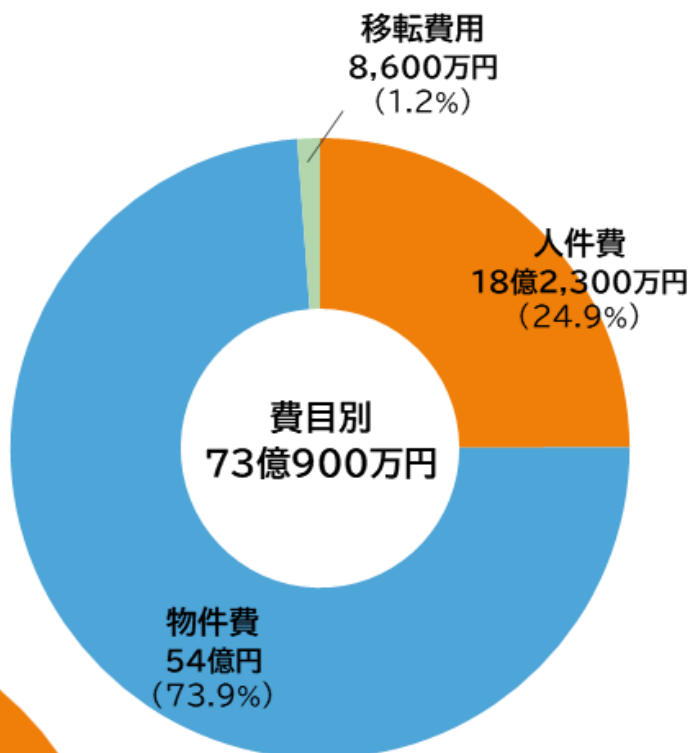
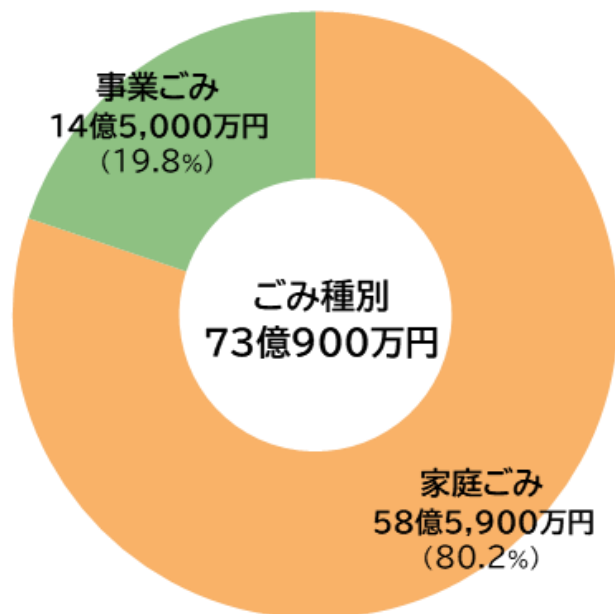
令和元年度 23.9% ▶ 6.1ポイント増 令和13年度 **30%**

令和4年度実績

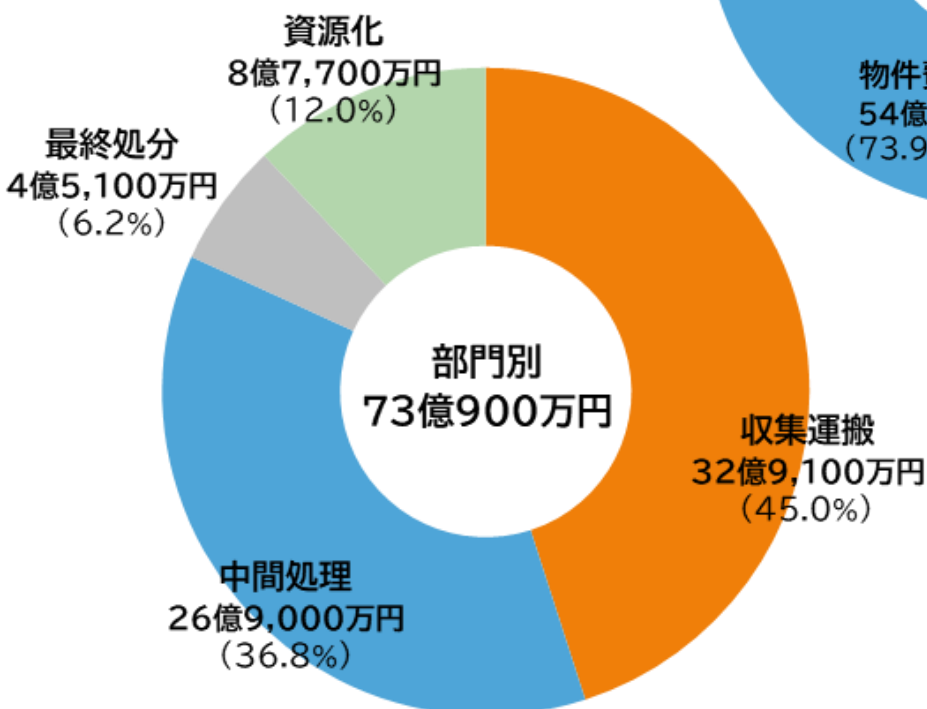
24.0% | 0.1ポイント増
※令和元年度比

3 ごみ処理経費の内訳 ①

ごみ処理経費全体の内訳 ※経費については、環境省「一般廃棄物会計基準」に基づき算出



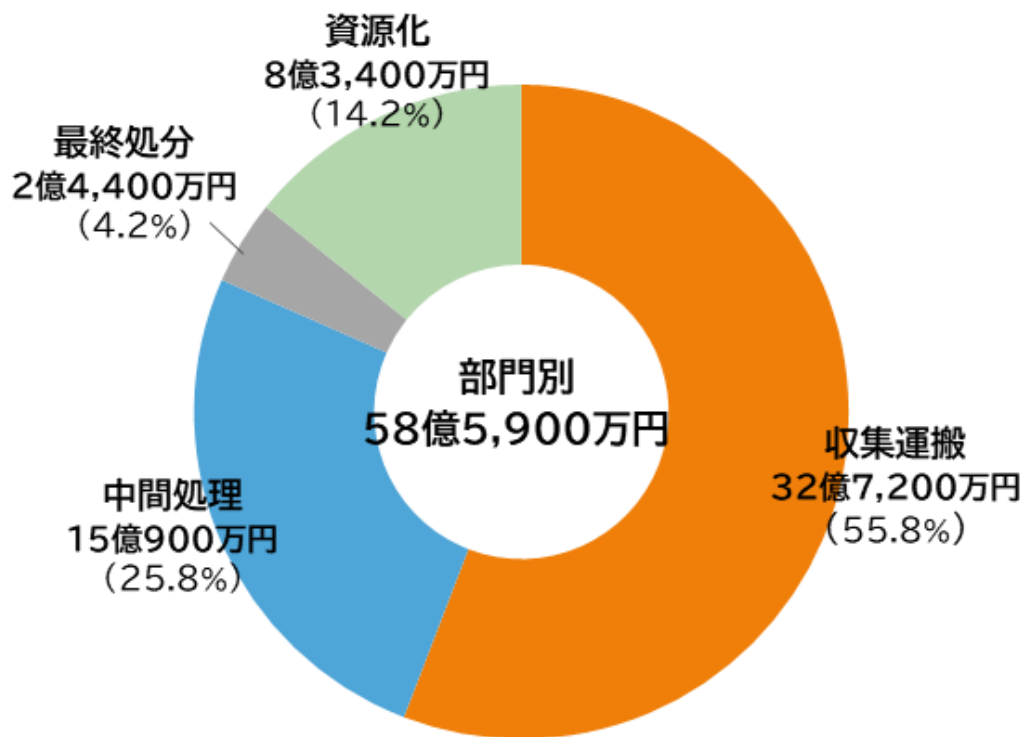
人件費 : 職員の給与等
物件費 : 処理費、委託料、減価償却費等
移転費用 : 組合分担金等



収集運搬 : クリーンセンターの運転管理費
及び収集運搬業務委託等
中間処理 : 環境工場の運転管理費等
最終処分 : 最終処分場の運転管理費等
資 源 化 : 資源化処理業務の委託料等
※運転管理費には減価償却費を含む

3 ごみ処理経費の内訳 ②

家庭ごみ処理経費の内訳 ※経費については、環境省「一般廃棄物会計基準」に基づき算出



収集運搬：クリーンセンターの運転管理費
及び収集運搬業務委託等
中間処理：環境工場の運転管理費等
最終処分：最終処分場の運転管理費等
資源化：資源化処理業務の委託料等
※運転管理費には減価償却費を含む

4 家庭ごみ処理手数料の使途 ①

家庭ごみ有料化(平成21年(2009年)10月実施)による、令和4年度(2022年度)の家庭ごみ処理手数料の使途は次のとおりです。

歳入 843,997千円  歳出 843,997千円

※家庭ごみ処理手数料:843,997千円(植木地区含む)

①指定収集袋製造等関係経費

内 容	・ 指定ごみ袋の製造や流通など家庭ごみ有料化制度の運営に必要な経費 ・ 有料化に伴い経済的負担が特に増加する者に対する支援として実施しているごみ袋の無料交付に必要な経費
充当額	307,914千円

②家庭ごみ再資源化推進経費

内 容	・ プラスチック製容器包装の分別収集や選別リサイクルに必要な経費 ・ ごみ焼却灰を有効利用するとともに扇田環境センターの更なる延命化を図るために実施しているごみ焼却灰のセメント原料化のために必要な経費 ・ 資源物の拠点回収に必要な経費 ・ クリーンセンターのパッカー車で使用するバイオディーゼル燃料の購入費
充当額	396,927千円

③環境美化推進経費

内 容	ごみステーションの管理補助やルール違反シール作成に必要な経費
充当額	52,512千円

4 家庭ごみ処理手数料の使途 ②

④ 3 R推進経費

内 容	・ 家庭ごみ・資源収集カレンダーの作成や、ごみカレンダーアプリの運用に必要な経費 ・ 家庭用生ごみ処理機購入助成金、生ごみ堆肥化容器購入助成金や広報経費 ・ ごみ問題や環境問題に関する環境学習に使用する副読本などの作成に必要な経費 ・ ごみ減量・リサイクル推進に関する市民への周知・啓発に必要な経費
充当額	14,460千円

⑤ 市民リサイクル活動助成経費

内 容	市民リサイクル活動への助成やリサイクル保管庫設置費助成に必要な経費
充当額	26,391千円

⑥（植木町）塵芥処理費

内 容	植木地区のごみ（資源）の分別収集に必要な経費
充当額	45,111千円

⑦ 食品ロス対策推進経費

内 容	啓発チラシ作成、事業系食品ロス実態調査に必要な経費
充当額	682千円

※家庭ごみ処理手数料の使途を示したものであり、各事業費の決算ではございません。

5 家庭ごみのリサイクル量の推移

熊本市では、平成21年(2011年)10月の家庭ごみ有料化以降、プラスチック製容器包装の分別収集の実施、さらには拠点回収の品目追加や回収拠点の拡充、焼却灰リサイクル事業の実施など、リサイクル推進のための施策を講じてきました。

リサイクル量の推移は次のとおりです。

単位:t

		R 2	R 3	R 4
分別収集	紙 (新聞紙、段ボール、雑紙、紙パック)	16,397	16,476	15,670
	資源物	カレット (ガラスびん)	3,514	3,348
		金 属 (缶、なべ類、自転車)	1,506	1,519
		古 着 類	1,172	1,122
	ペットボトル		1,842	2,097
	プラスチック製容器包装		5,314	4,864
	特定品目	蛍光管等	48	43
		電池類	168	165
	埋立ごみ金属回収		2,250	1,970
	大型ごみ金属回収		296	257
固形燃料化		290	272	265
拠点回収(樹木等)		850	839	863
小型家電宅配回収		21	21	21
焼却灰リサイクル		3,456	2,482	2,487
市民リサイクル活動		3,998	3,614	3,295
合計		41,122	39,089	37,229

家庭ごみリサイクル率とは ①

『家庭ごみリサイクル率』とは、家庭ごみの中でリサイクルされたものの割合を示したもので、『リサイクル量』÷『家庭ごみ排出量』で算出します。

家庭ごみ
リサイクル率

=

リサイクル量（市民リサイクル活動回収量含む）

家庭ごみ排出量（市民リサイクル活動回収量含む）

令和4年度
実績

37,229 t

155,419 t

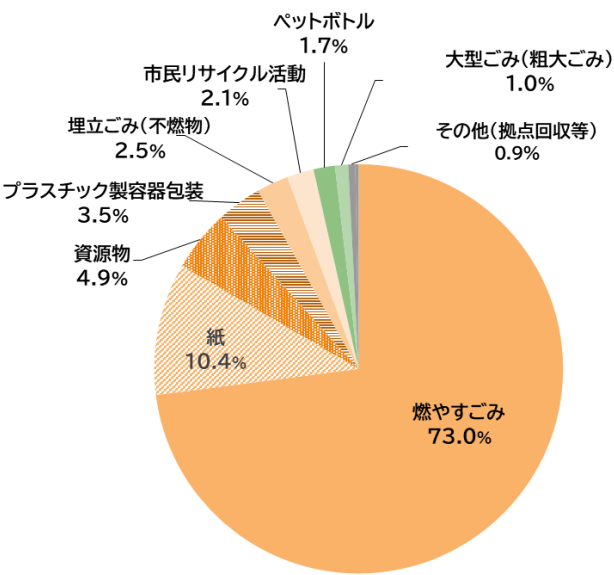
= 24.0%

家庭ごみ排出量（市民リサイクル活動回収量含む）には、「燃やすごみ」「埋立ごみ」「紙」「資源物」など、市が定期収集しているものに加え、市施設等にて実施している拠点回収で集めた物も含まれます。

さらに、町内自治会やこども会の方が市民リサイクル活動で集められた資源物も含まれます。

家庭ごみ排出量の内訳

品 目	排出量	割合
燃やすごみ	113,386t	73.0%
紙	16,236t	10.4%
資源物	7,595t	4.9%
プラスチック製容器包装	5,481t	3.5%
埋立ごみ（不燃物）	3,914t	2.5%
市民リサイクル活動	3,295t	2.1%
ペットボトル	2,623t	1.7%
大型ごみ（粗大ごみ）	1,625t	1.0%
拠点回収（樹木等）	863t	0.6%
特定品目（蛍光管・乾電池）	380t	0.2%
小型家電宅配回収	21t	0.1%
計	155,419t	100%



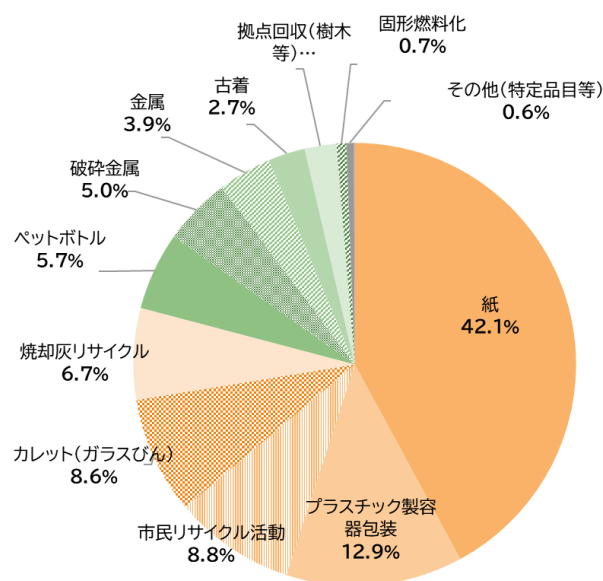
家庭ごみリサイクル率とは ②

リサイクル量（市民リサイクル活動回収量含む）については、市が分別収集した「紙」や「資源物」などのうち、実際にリサイクルされたもの（不適合物が取り除かれたもの）の量に加え、「大型ごみ」や「埋立ごみ」を破碎して回収した金属類、拠点回収や市民リサイクル活動で集められた資源物の量も含まれます。

さらに、焼却施設で発生した焼却灰のうち、金属回収などでリサイクルされた量も加えています。

家庭ごみリサイクル量の内訳

品 目	リサイクル量	割合
紙	15,670	42.1%
プラスチック製容器包装	4,807	12.9%
市民リサイクル活動	3,295	8.8%
カレット(ガラスびん)	3,192	8.6%
焼却灰リサイクル	2,487	6.7%
ペットボトル	2,115	5.7%
破碎金属	1,848	5.0%
金属	1,459	3.9%
古着	1,002	2.7%
拠点回収(樹木等)	863	2.3%
固形燃料化	265	0.7%
特定品目(蛍光管・乾電池)	205	0.5%
小型家電宅配回収	21	0.1%
計	37,229t	100.0%



※分別収集した資源物はリサイクルできない不適合物が含まれているため、

“「排出量」>「リサイクル量」” となります。

※拠点回収や市民リサイクル活動で集められた資源物は不適合物が殆ど入っていないため、

“「排出量」＝「リサイクル量」” となります。

家庭ごみリサイクル率とは ③

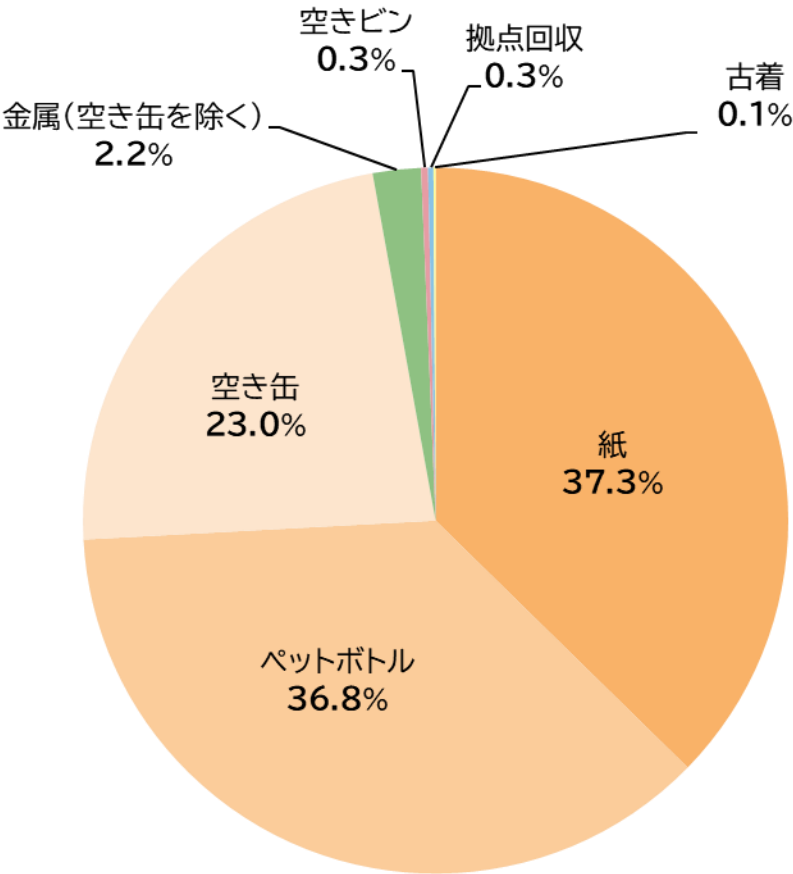
「紙」や「資源物」「ペットボトル」等の回収した家庭ごみは、品目ごとに再度選別し、新たな原料として売却を行っています。

令和4年度(2022年度)に回収した家庭ごみの売却益は約5億5,217万円となっており、家庭ごみ処理手数料とあわせて貴重な収入になっています。

※分別した資源物のリサイクルの過程等については「家庭ごみのリサイクル」をご確認下さい。

回収した家庭ごみの売却益の内訳

品目	売却益	割合
紙	206,095,000円	37.3%
ペットボトル	203,299,000円	36.8%
空き缶	126,956,000円	23.0%
金属(空き缶を除く)	12,167,000円	2.2%
空きビン	1,744,000円	0.3%
拠点回収(小型家電等)	1,365,000円	0.3%
古着	541,000円	0.1%
合計	552,167,000円	100.0%



リサイクル率を向上させるためには

「燃やすごみ」の組成分析調査によると、燃やすごみとして出されたごみの中には、**リサイクルできるものが21.2%も混在している**という結果が出ています。

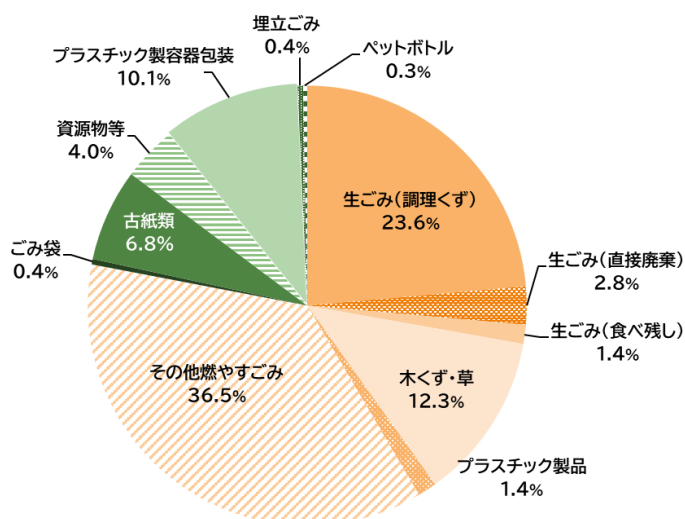
また、そのうちの**4.0%が資源物等**、**6.8%が古紙類**となっています。

分別の徹底は、リサイクル率向上だけでなく、貴重な資源の有効活用や売却益の増加にもつながります。

「燃やすごみ」組成分析調査結果

大分類		小分類	令和4年度構成比率 (%)
燃やすごみ		生ごみ(調理くず)	23.6%
		生ごみ(直接廃棄)	2.8%
		生ごみ(食べ残し)	1.4%
		木くず・草	12.3%
		プラスチック製品	1.4%
		その他燃やすごみ	36.5%
		ごみ袋	0.4%
		計	
現在の分別ルールが守られていないもの	古紙類	新聞紙・折込みチラシ	0.7%
		段ボール	0.2%
		雑誌・はがき・封筒など	5.2%
		紙パック	0.7%
	小 計		6.8%
	資源物等	びん・缶	0.4%
		古着	3.5%
		特定品目	0.1%
		小 計	
	プラスチック製容器包装		10.1%
	埋立ごみ		0.4%
	ペットボトル		0.3%
	計		21.6%
上記のうち分別すればリサイクルできる割合			21.2%

※小数点第2位を四捨五入して表記しているため、小分類の構成比率の足し合わせが小計と一致しないことがあります。



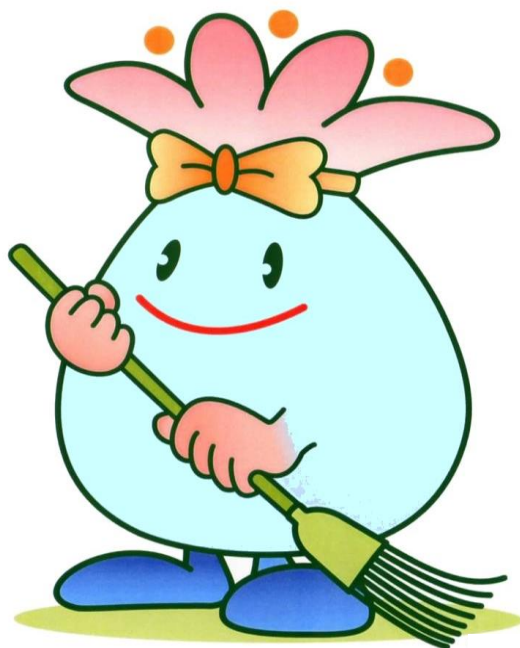
分別すればリサイクルできるもの



燃やすごみに含まれていた食品ロス

リサイクル率を上げるためにできること

- ・リデュース(発生抑制)やリユース(再使用)を心掛け、ごみの発生量を減らす。
- ・分別ルールを守り、リサイクル(再利用)量を増やす。



ごみ出し3原則

ごみ出しは

1. 決まったごみを
2. 決まった日に
3. 決まった場所に

熊本市 環境局資源循環部 廃棄物計画課

〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号

電 話：096-328-2359 F A X：096-359-9945

E-mail：haikikeikaku@city.kumamoto.lg.jp